HOUSE 3

長野の自然に暮らす高気密・高断熱の家

家族を守るシェルターみたいなわが家。爽やかな夏も零下20度の冬も楽しい！

厳寒に耐える断熱性と自然を楽しむ開放性を両立させた住まい

澄んだ空。静かな白樺の林。小川のせせらぎ。建築パースの作成を職業とする小野寺さんは、アトリエで過ごす時間が長いことから、八ケ岳の麓の豊かな自然の中に移住を決意。今では月に数度、東京へ打ち合わせに出かけるほかは、家族と一緒に恵まれた環境を満喫しています。

「でも冬季には零下20度にもなります。この自然の中では家にシェルターとしての機能が必要でした」とは、設計者・余川辰哉さん。

床・壁・天井には100㎜の断熱材を入れ、ベタ基礎を採用して地中からの冷気も遮断。窓にはペアガラスを入れたうえに南西側に集中させ、北東側は壁面を多くしています。おかげで、冬場の暖房は1階の石油ストーブか、2階の薪ストーブだけ。家の手入れが大好き、というご夫妻の性格から、特別な機械換気の設備は置かず、意識的に窓を開閉することで外気の新鮮さを味わっています。

小屋組みや柱をそのまま表した室内は、間仕切りやドアの少ないオープンな間取り。弧を描いた高窓からは四季折々の空模様がのぞきます。

「流れる雲の動きまで感じられるんです」（奥さま）

万全の断熱性と適度な開放性。小野寺さん一家は、自然とともに暮らす毎日をゆったりと楽しんでいます。

庭はそのまま公園のようなもの。木々に渡したご主人お手製のブランコは、二女・萌衣ちゃんのお気に入り

（上）自然に包まれた小野寺邸。積雪に耐えるよう、軽く頑丈な屋根に［屋根］アルミ亜鉛メッキ鋼板折板葺き［外壁］スギ板横張り。（中）壁と天井に複層アクリル板を使って明るい玄関。（下）ホールの石油ストーブ（三共電機）は体育館にも使われるほどの熱量があり、家中を暖めてくれます

小野寺さんの家 長野・諏訪郡

●家族構成
夫42歳　妻39歳
長女8歳　二女6歳　長男4歳

本体工事費 **2995**万円
3.3㎡単価 **56.9**万円

●床面積／173.74㎡
●契約／平成7年4月

設計／余川辰哉

屋根のカーブに沿って空間の広がる2階LDK。南西から差し込む光が木質系の内装を明るい雰囲気に。ご主人作のイスや棚が配され、室内に温かみを加えています［床］ベイマツ張り［壁・天井］ラワン合板突き付け張り

おおらかに広がる家の中は家族の遊び場。「どの部屋にいても、いつも一緒だよ」

LDKから一段上がった北東側にはドラムとピアノ。長女・永柚ちゃんのスティックさばきはお父さん直伝です。鉄柵に囲まれているのは1階のストーブの煙突。暖気が2階にも漂います

(上)一幅の絵が壁面に現れたかのような2階・北西面の窓。「日に日に印象が違う」(ご主人)のだとか。(左)1階・将来の子供室のなんでもない一角も、ご主人作の家具を生かしてディスプレー。家族で楽しみながらセッティングしている様子が想像できます

ドラムとピアノの反対側は、子供たちのプレイルーム兼お昼寝部屋。長男・陸くんとお姉ちゃん、3人そろって仲よく積み木遊び。この数分後にはケンカが始まるのですが……　[床]パーティクルボード張り

(上)北東面の窓は熱が逃げないよう、面積は控えめ。その分、飾られたインテリアが引き立ちます。高窓からの採光も有効。(右)2階は、スキップフロアになっているもののオープンな間取り。この座卓についていると、1階の玄関まで視界に入ってきます

(右)キッチンは小野寺邸の中心。ここに立っていると家じゅうの気配が伝わってきます。「家族が一緒に住んでいることを実感できます」と奥さま。(左)今日のお昼は座卓でスパゲティ。薪ストーブとウッドベース、ちゃぶ台とが不思議にマッチし、賑やかな雰囲気に